令和５年度

私学経営研修会

実施報告

研究のねらい

新たなブランドビジョンを描く
～私学の先見性・独自性を発揮するには～

予測困難な社会情勢が続き、的確な判断を模索していかなければならない今こそ、私学のミッションを、自信をもって追求し、未来社会を創造する若者を育てるための教育活動を推進する好機である。われわれは建学の精神を根底に、先見性とともに独自性を持ってこれからのブランドビジョンを描く必要がある。

今年度当研修会は「新たなブランドビジョンを描く～私学の先見性・独自性を発揮するには～」を研究のねらいにして開催する。津田純嗣・株式会社安川電機特別顧問を講師に迎えての基調講演、最新情報と開催県独自の取り組みについての報告、西高辻信良・太宰府天満宮第 39 代宮司、宝満宮竈門神社宮司及び、私学経営の責任を担う理事長・校長によるパネル・ディスカッションに加え、グループ討議形式での意見交換会と懇談による交流を行う。また、特色ある教育を実践している福岡大学附属大濠中学校・高等学校、福岡雙葉中学校・高等学校を視察する。

当研修会では、次代を担う若者のための、未来を見据えた私学経営のあり方を模索する。知識偏重の現状を打破し論理的・創造的思考力を養う教育を実現するための機会となることを願っている。

★会期　令和５年６月１日(木)～ ６月２日(金)

★会場　ホテルオークラ福岡　〒812-0027 福岡県福岡市博多区下川端町 3-2　博多リバレイン
TEL. 092-262-1111(代)（福岡市地下鉄「中洲川端駅」より徒歩２分）

〇参加者数　**135 名**

〇参加対象　理事長、校長、副校長・教頭、事務長またはこれらに準ずる管理職の方
※参加対象校は、都道府県私学協会加盟の私立中学校・高等学校・中等教育学校

〇基調講演　演題「日本の製造業の歴史と未来：安川電機の視点から」
講師　**津田　純嗣**　株式会社安川電機特別顧問

〇プログラム

時刻	8:30	9:30	10:45	11:40	12:50	13:30	14:40	15:10	16:15	17:30	18:30	19:30
初日	受付	開会式	講演	基調講演	昼食	報告 I	報告 II	パネルディスカッション			教育懇談会	
2日目	意見交換会	総括	昼食（Aコース）／昼食（Bコース）	移動	学校視察	移動						

福岡大学附属大濠中学校・高等学校

福岡雙葉中学校・高等学校

◇主催　一般財団法人日本私学教育研究所　◇後援　福岡県、福岡県私学協会、日本私立中学高等学校連合会

一般財団法人日本私学教育研究所　私学経営研修会担当　〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-3-8 市ヶ谷ＵＮビル６階
電話 03(3222)1621　FAX 03(3222)1683　ホームページ URL　https://www.shigaku.or.jp/

2023.12

☆ **研修会日程・プログラム**

《会場》ホテルオークラ福岡４階「平安ⅡⅢ」

【1 日目】6 月 1 日(木)　　司会　川本　芳久　一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長

8:30-9:00	**受付**
9:00-9:30	**開会式** ◇主催者代表挨拶　**吉田　晋**　一般財団法人日本私学教育研究所理事長 ◇開催地代表挨拶　**八尋　太郎**　福岡県私学協会会長 ◇来賓祝辞　**服部誠太郎**　福岡県知事 ◇来賓祝辞　**高島宗一郎**　福岡市長 ◇役員・専門委員紹介 ◇研修会運営方針説明　**長塚　篤夫**　一般財団法人日本私学教育研究所副理事長･私学経営専門委員長
9:30-10:45	**講演** ◇演　題　「**教育政策と私立学校**」 ◇講　師　**吉田　晋**　日本私立中学高等学校連合会会長・一般財団法人日本私学教育研究所理事長
11:00-12:30	**基調講演**　講師紹介・謝辞　**八尋　太郎**　福岡県私学協会会長 ◇演　題　「**日本の製造業の歴史と未来：安川電機の視点から**」 ◇講　師　**津田　純嗣**　株式会社安川電機特別顧問
12:30-13:30	**昼食**
13:30-14:00	**報告Ⅰ** ◇テーマ　「**学習支援センターの取り組みについて**」 ◇報告者　**菅　世紀弥**　一般社団法人福岡県私学教育振興会 学習支援センターセンター長
14:10-15:00	**報告Ⅱ** ◇テーマ　「**変革の時代に未来の学びをデザインする**」 ◇報告者　**平方　邦行**　一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長
15:15-17:30	**パネル・ディスカッション** ◇テーマ　「**新たなブランドビジョンを描く～私学の先見性・独自性を発揮するには～**」 ◇パネリスト　**西高辻信良**　太宰府天満宮第 39 代宮司、宝満宮竈門神社宮司 **八尋　太郎**　学校法人博多学園理事長 **田原　俊典**　修道中学校・修道高等学校校長 ◇コーディネーター　**鈴木　康之**　水戸女子高等学校理事長・校長
18:00-19:30	**教育懇談会**　※着席形式(2 日目意見交換会グループ毎に交流)　《会場》同４階「平安Ⅰ中」 ○開会 ○主催者挨拶　**山中　幸平**　一般財団法人日本私学教育研究所副理事長 ○来賓紹介 ○乾杯　**堀　雄一**　福岡県私学協会副会長 ○次年度開催地代表挨拶　**森　涼**　福島県私立中学高等学校協会会長 ○閉会挨拶　**平方　邦行**　一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長

【2 日目】6 月 2 日(金)

《会場》ホテルオークラ福岡 4 階「平安」

司会　川本　芳久　一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長

9:00-11:40	**意見交換会** ◇テーマ　「新たなブランドビジョンを描く～私学の先見性・独自性を発揮するには～」 ○重点テーマ ① 新しいブランドビジョン（建学の精神、ブランディング、組織活性化） ② 未来を創造する力を育む教育（ICT 活用教育、グローバル教育、探究学習・PBL） ③ これからの教職員のキャリア形成（働き方改革、採用、育成・研修・評価） ④ 私学の特色と情報発信（特色教育、生徒募集、広報） ○指導助言　一般財団法人日本私学教育研究所役員・私学経営専門委員（各グループを巡回します） ※4 つのテーマについてグループに分かれ、参加者による意見交換会（司会は参加者に依頼します）
11:40-11:50	**総括**　長塚　篤夫　一般財団法人日本私学教育研究所副理事長・私学経営専門委員長
11:50-12:40	**昼食**　（B コースは 11:50-12:30） ※学校視察 A コース参加者は 12 時 35 分に、B コース参加者は 12 時 25 分に会場 1 階ロビーにお集まり下さい。
A コース 12:40-16:00 B コース 12:30-16:00	**学校視察**（ホテルより貸切バスで移動） A コース　福岡大学附属大濠中学校・高等学校 ＜共学校＞［福岡市・会場からバスで 20 分］ 生徒による体育祭アトラクション準備や部活動の様子、施設を視察します。授業視察はありません（体育祭前日のため）。 B コース　福岡雙葉中学校・高等学校 ＜女子校＞［福岡市・会場からバスで 30 分］ 授業の様子を視察します。探究学習や英語教育が特徴で、ICT 教育にも力を入れています。 ◎スケジュール（出発時間のみ A コース・B コース別） （A コース 12:40、B コース 12:30）ホテルオークラ福岡出発 ⇒ 13:00-15:20 学校視察⇒ 15:40 JR 博多駅 ⇒ 16:00 ホテルオークラ福岡到着

◆参加者へのお願い◆

①研修会場での動画・写真撮影等について

・当研修会での主催者記録係・取材メディア以外による録画・録音は禁止します。
・講師・発表者等の許可無く研修会の写真・内容等のホームページ・ブログや各種 SNS 等へのアップロードは禁止します。
・撮影した動画・写真は当研究所広報活動(刊行物・ホームページ掲載等)や取材メディアの新聞掲載等で使用する場合があります。会場内の様子を撮影する関係上、参加者が写真や動画に映り込む可能性がありますので、予めご了承下さい。

②視察校での動画・写真撮影について

・動画撮影については禁止します。
・生徒個人が特定できる顔写真等の撮影は禁止します。
・撮影した写真は学校内の研修や報告等に活用する場合に限り使用を許可しますが、学校のホームページや紀要・報告書等への掲載、各種 SNS 等へのアップロードは禁止します。
・撮影写真の使用後は速やかに破棄して下さい。
・視察中は視察校の指示に従って行動して下さい。

大濠公園(福岡市)
©福岡県観光連盟

九州国立博物館(太宰府市)
©福岡県観光連盟

講師プロフィール

◇基調講演

津田　純嗣（つだ　じゅんじ）　株式会社安川電機特別顧問

1951 年福岡県生まれ。1976 年東京工業大学工学部機械工学科を卒業後、安川電機製作所（現・株式会社安川電機）に入社。1998 年米国安川電機株式会社取締役副社長、2010 年株式会社安川電機代表取締役社長に就任。2016 年代表取締役会長、2022 年 5 月より現職。一般社団法人日本ロボット工業会会長、一般社団法人日本電機工業会会長、国際ロボット連盟会長を歴任、2017 年より公立大学法人北九州市立大学理事長、福岡経済同友会代表幹事、2021 年より北九州商工会議所会頭を務める。

◇パネリスト

西高辻信良（にしたかつじ　のぶよし）　太宰府天満宮第 39 代宮司、宝満宮竈門神社宮司

1953 年福岡県太宰府市生まれ。慶應義塾大学文学部社会学科卒業後、國學院大學神道学専攻科へ進み、神職資格を取得。1983 年、30 歳で太宰府天満宮宮司、宝満宮竈門神社宮司に就任。2019 年に長男が 40 代宮司に就任した後も、竈門神社宮司として祭典奉仕に務める傍ら、太宰府天満宮幼稚園園長として神道理念に基づいた情操教育を推進するほか、九州国立博物館評議員や、2022-2023 年度福岡ロータリークラブ会長等の様々な役職を兼任している。

◆講師・指導員（順不同）◆

津田　純嗣（株式会社安川電機特別顧問）
菅　世紀弥（一般社団法人福岡県私学教育振興会　学習支援センターセンター長）
西高辻信良（太宰府天満宮第 39 代宮司、宝満宮竈門神社宮司）
八尋　太郎（学校法人博多学園理事長）
曽野　正純（福岡大学附属大濠中学校・高等学校校長）
谷本　　昇（福岡雙葉中学校・高等学校校長）
田原　俊典（修道中学校・修道高等学校校長）
鈴木　康之（水戸女子高等学校理事長・校長）
吉田　　晋（富士見丘中学高等学校理事長・校長）
平方　邦行（一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長）
山中　幸平（学校法人山中学園学園長）

◆専門委員・指導員（順不同）◆

長塚　篤夫（順天中学高等学校校長）
鈴木　康之（水戸女子高等学校理事長・校長）
西岡　憲廣（札幌山の手高等学校理事長・校長）
嵯峨　実允（学校法人藤華学院理事長）
梅村　光久（学校法人三重高等学校理事長）
摺河　祐彦（姫路女学院中学高等学校理事長・校長）
大多和聡宏（学校法人大多和学園理事長）
菅沼宏比古（学校法人西海学園理事長）
八尋　太郎（学校法人博多学園理事長）
川本　芳久（一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長）

令和５年度私学経営研修会《視察先学校》

福岡県の私立中学高等学校は、それぞれの建学の精神のもと、独創性豊かで先取的な教育を展開しています。
今回の学校視察では、福岡県私学協会の全面的な協力によって、
福岡大学附属大濠中学校・高等学校【A コース】、福岡雙葉中学校・高等学校【B コース】を訪問します。

A コース　福岡大学附属大濠中学校・高等学校

【理事長　貫　正義　　校長　曽野　正純】

本校は、戦後日本の復興のためには有為の青年を育てる私立学校が必要だということから、1948 年に福岡外事専門学校附属大濠中学校として設立されました。今年度で 75 周年を迎えます。創立の際に掲げた教育方針は次の通りです。「一、日本人としての自覚と誇りを持たせる」「一、道徳教育を通じて人間性を高める」「一、広く自主活動を促し能力を啓発する」開校以来男子校でしたが、2011 年から中学校が、翌年から高等学校も共学となりました。学則定員は中学 480 名、高校 1860 名です。ほぼ全員が大学進学を目指しており、部活動では体育系文化系ともに多くのクラブが全国大会に出場しています。中学・高校合同で行う体育祭と文化祭が生徒会主催の二大学校行事であり、大いに盛り上がります。

学校視察研修会当日は体育祭の前日準備となっておりますので、授業を参観していただくことはできませんが、生徒主体で創り上げていく本校の学校文化の一端をご紹介いたします。また、2010 年に竣工した校舎施設にも独自性がございますので、合わせてご覧ください。

☆視察プログラム

12:40	会場ホテル出発（貸切バス）
13:00	**福岡大学附属大濠中学校・高等学校到着**
13:10	**視察校代表挨拶、学校紹介**
13:40	**施設見学、体育祭アトラクションや部活動の見学など**
15:00	**全体会（質疑応答、視察団代表挨拶）**
15:20	視察終了、学校出発（貸切バス）
	JR 博多駅経由（15:40 着予定）、会場ホテル（16:00 着予定）

※授業視察はありません。

B コース　福岡雙葉中学校・高等学校

【理事長　麻生　泰　　校長　谷本　昇】

福岡雙葉中学校・高等学校は、1933 年に幼きイエス会（旧サン・モール修道会）を母体に、現在地に福岡女子商業学校として開校いたしました。幼小中高一貫のカトリックの女子校です。

グローバルシティズン教育を掲げており、「高い学力」「高い志」「高いコミュニケーション能力」そして「豊かな心と品性」、学びの根幹に常にこの 4 つを据えています。大きな特色として夢を後押しする「英語教育」があります。大学入試に向けての受験対策にとどまらず、グローバルシティズンに必要なツールとしての英語で、思いを伝えることのできる社会人を目指した教育を行っています。また、オンライン授業やデジタル教材を活用した「ICT 教育」、主体性育成の「総合学習・総合探究」に積極的に取組んでいます。オンライン（デジタル）とオフライン（対面授業）の利点を活かし、ハイブリッド型の教育を推進しております。

☆視察プログラム

12:30	会場ホテル出発（貸切バス）
13:00	**福岡雙葉中学校・高等学校到着**
13:10	**視察校代表挨拶、学校紹介**
14:25	**授業視察（6 限）**
15:00	**全体会（質疑応答、視察団代表挨拶）**
15:20	視察終了、学校出発（貸切バス）
	JR 博多駅経由（15:40 着予定）、会場ホテル（16:00 着予定）

◆概要◆

67 回目となる本年度当研修会は、6 月 1 日(木)～2 日(金)、福岡県福岡市・ホテルオークラ福岡において「新たなブランドビジョンを描く～私学の先見性・独自性を発揮するには～」を研究のねらいに開催し、30 都道府県から、定員を超える 135 名が参加した。

初日の開会式では、大曲昭恵・福岡県副知事、中村英一・福岡市副市長が臨席され、服部誠太郎・福岡県知事、高島宗一郎・福岡市長に代わり祝辞を披露した。全体会では吉田晋・日本私立中学高等学校連合会会長の講演、津田純嗣・株式会社安川電機特別顧問の基調講演、菅世紀弥・一般社団法人福岡県私学教育振興会学習支援センターセンター長による学習支援センターの取り組みについての報告、平方邦行・当研究所所長の報告を行った。その後のパネル・ディスカッションでは、西高辻信良・太宰府天満宮第 39 代宮司、宝満宮竈門神社宮司、八尋太郎・学校法人博多学園理事長、田原俊典・修道中学校・修道高等学校校長をパネリストに迎え、鈴木康之・水戸女子高等学校理事長・校長がコーディネーターを務めた。私学の独自性における課題と実践や、私学に求められる新たなブランドビジョンなど幅広い内容を扱い、未来を見据えた私学経営において大切にすべき点について提言がなされた。その後、参加者は教育懇談会で交流を深めた。

2 日目の意見交換会は、参加者が司会を行うなどより参加者主体の形に変更して実施した。「新しいブランドビジョン」「未来を創造する力を育む教育」「これからの教職員のキャリア形成」「私学の特色と情報発信」の 4 つの重点テーマについて、各校が直面する諸課題について語り合い、経験と課題を共有した。午後の学校視察では特色ある教育を実践している、福岡大学附属大濠中学校・高等学校及び福岡雙葉中学校・高等学校を視察した。

参加者からは「私学の現状を踏まえた課題について改めて認識できた」（講演）、「社会の変化を予測する重要性を知った」（基調講演）、「自校の問題解決のヒントを得た」（パネル・ディスカッション）、「今後の学校経営の指針をつかめた」（意見交換会）など、各プログラムへ好評が寄せられた。

地元関係者の協力のもと、私学の躍進を目指して企画実施した本年度当研修会は、所期の目的を達成し成功裡に終了した。

◇開会式◇

（吉田晋・当研究所理事長、八尋太郎・福岡県私学協会会長、長塚篤夫・当研究所副理事長・専門委員長）

○主催者代表挨拶（吉田晋　当研究所理事長）

今年度当研修会には、定員を大きく超える 135 名の先生方にお集まりいただいた。研究のねらいの通りまさに先見性・独自性を持つのが私立学校である。各校が尊重し協働しながら私立学校全体を底上げして、日本の教育の発展に繋げていきたい。この 2 日間が充実した研修となることを願っている。

○開催県代表挨拶（八尋太郎・福岡県私学協会会長）

当研修会はコロナ禍のため一度中止となった経緯があり、3年越しに本県で開催されることを嬉しく思う。私学経営は厳しい局面にあるが、各私立学校は建学の精神のもと特色ある教育を発展させるため創意工夫されている。全国の私学関係者が共に学ぶこの貴重な研修会が、有意義なものとなることを祈念している。

○来賓祝辞（服部誠太郎・福岡県知事）【大曲昭恵・福岡県副知事】

本県では高校生の約4割が私学に在籍している。社会が急激に変化する中で、柔軟な思考力や創造力を身につけた次代を担う「人財」の育成は何よりも重要である。私立学校に対する期待は今後ますます大きくなるものと考えている。研修を通して、特色ある学校運営にさらに磨きがかかることを期待している。

○来賓祝辞（高島宗一郎・福岡市長）【中村英一・福岡市副市長】

予測困難な社会情勢が続く中、学校教育の役割はますます重要になっている。学習指導要領では、情報活用能力が学習の基盤となる資質・能力に位置づけられ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を求めている。各学校の特色をさらに活かした魅力ある教育の実践に向け、有意義な研修となることを祈念している。

○研修会運営方針説明（長塚篤夫　当研究所副理事長・私学経営専門委員長）

私立学校は建学の精神を根底に、先見性とともに独自性を持ってこれからのブランドビジョンを描き、未来社会を創造する若者を育てる教育活動を推進せねばならない。今年度当研修会では意見交換会の運営方針を変更している。より主体的に研修に参加していただき、多様な参加者と協働してもらいたい。

◇講演◇

「教育政策と私立学校」（吉田晋　当研究所理事長・日本私立中学高等学校連合会会長）

学校は生徒が集まらないと成り立たない。少子化が進む現代では、自校で多くの生徒を集めると別の学校では生徒が足りなくなる。生徒数を見ると、人口が減少しているため数字的には減っているが、公立学校に比べて私立学校の割合は毎年微増している。

私立高等学校等経常費助成費補助は、生徒数の減少のために総額が減った以外は、単価は10年間一度も減らされていない。地方交付税による財源措置額についても、この5年間で2万円程度は増加している。しかし、物価上昇には追いついていない。私立学校法の一部を改正する法律案は4月26日に成立、令和7年4月1日施行される。これによって文部科学大臣所轄法人は大きく変わるが、都道府県知事所轄法人は理事と評議員を分けなければいけない点以外はほとんど変わってない。

教員免許制度については、優秀な社会人を採用して教えられるようにすればよいのではないか。しかし、特別免許状、臨時免許状はあまり多くは出されていない。今の大学生の免許状取得者が減っており、更に一般企業に内定すれば一般企業に就職する傾向があるため、教員採用試験の早期化・複線化の検討されている。大学生を日頃から支援員やインターンとして受け入れ、良ければ教員として採用し一定期間働いた後、学校が教育委員会に申請し教員免許状を出す制度にすることはできないのだろうか。高校教育の実態は地域・学校により非常に多様で、教師に求められる資質・能力などは、学校毎に異なり、そうでなくては学校の意味がない。

私は、生徒が社会にでるときに必要な能力や社会性を身に着けるのは、中等教育が元になっていると思っている。成年年齢が引き下げられたが、生徒が社会にでるための必要な教育の基本は変わっていない。海外留学についても、「トビタテ!留学JAPAN」も当初大学生を対象にしていたが、大学生の応募より高校生の応募が多くなった。それは我々、中学校・高等学校の先生方が頑張ってグローバル化社会に対応した教育を行って生徒が海外に目を向けられるようになったからである。良い教育を行うためにはお金がかかる。国立、公立、私立問わず、それぞれの学校が行っている良い教育に対してはもっと補助が受けられる形になってほしい。

21世紀のグローバル化社会を担っていく子供たちにしっかりとした判断力、表現力、思考力を持たせることが必要である。一人一人がしっかり自立した、そして、日本人として世界で羽ばたく人たちを育てることが我々の義務だと思っている。先生方には県を問わず国を問わず、本当に子供たちの将来のためにご協力をお願いしたい。

◇基調講演◇

「日本の製造業の歴史と未来：安川電機の視点から」（津田純嗣・株式会社安川電機特別顧問）

当社は工場の自動化機器、自動化システムの製造販売を事業としている。創立は1915年で、創立の地である福岡県北九州市に現在も本社を置いている。事業としては、モーションコントロールが46%、産業用ロボットが40%、システムエンジニアリング事業が9%となっており、仕向け先は国内が29%で海外が71%である。アメリカ21%、ヨーロッパ15%、中国24%、中国除くアジア11%と、くまなく事業展開している。生産は国内が半分で、メインの開発も全て日本で行っている。

創業家の安川敬一郎は幕末の生まれの福岡藩士であった。明治の時代に「産業を興して国の恩に報ゆる」という思いを抱き、1915年に安川電機製作所を設立した。実際の安川電機創業者は安川第五郎である。当時は工場の動力源が蒸気機関やガス発動機などから、電力に統一されていく時代であった。彼は日本の工場の発展のために電機動力が絶対に必要だと考え、安川電機を創業した。1930年代、安川電機は西日本のモーターシェアの2割弱を占めていたが、その先が見えてこなかった。選択と集中という中で、電動機とその応用を事業とするという軸を定めた。今の言葉で言うオートメーションである。1970年頃には、戦後の高度経済成長とともに社会は大きく動いていった。当社は比較的早い時期に電子機器工場を建設し、次はデジタルの時代が来るという予測のもと事業を進めた。インダストリ3.0はアナログからデジタルに変わっていく時代である。日本のデジタル化は世界とほぼ同時並行的に進み、早くから事業を進めていた当社はほぼ世界の最先端のレベルに位置することができた。当時、組み立て産業の自動化はベルトコンベアに人がへばりついて物を作っていくという程度だったが、これを自動化したいという構想が進んでいた。このアンマンドファクトリ構想では、Flexible Manufacturingを実行し柔軟な生産ができる工場を作りたいとコンセプトが絞られた。考えついたのが

Mechanism(機械)とElectronics(電子)の融合、メカトロニクスだ。理想の機械のコンセプトがメカトロニクス。では理想の事業はというと、「世の中の機械を安川のサーボモータとエレクトロニクスによる制御で変革しFlexible Manufacturingを実現する」こと。アンマンドファクトリ構想を実現する製品をと開発を進めてきた。開発の方向性の1つは、世の中に今ある機械をメカトロニクス化しようというもの。もう1つの方向性が、世の中になかった機械を作ろうというもの。それがロボットだ。1977年にようやくロボット実用化一号機が完成する。当社のビジョンはオートメーションの安川としていたが、それ以降はメカトロニクスの安川へと大きく会社の方向性の舵を切ることになった。産業用ロボットのデモンストレーションをお見せする。ねらいの市場は自動車ということで始まった。日本メーカの自動車の生産数は順調に増え目論見は当たったが、1990年代には家電や自動車が海外生産・販売に移っていった。これに伴って、当社も需要地生産へ海外進出を余儀なくされた。現在は海外生産が70%で13カ国29拠点、海外販売が50%で30カ国となっている。

その後、中国の進出により状況は大きく変化した。2017年の製造業産出高は中国が4兆ドルと他を圧倒している。日本は1/3だが、米国に次いで世界3位となっている。各国のGDPに占める製造業の割合を見ると、日本は22%で、G7各国で20%を超えているのは日本とドイツだけである。そんな中で中国は40%で、圧倒的に製造業に対して力が入っていることが分かる。粗鋼生産量の推移を比べてみると、粗鋼の生産とともに日本のGDPも上がっていったが、粗鋼の生産量は1995年に中国に抜かれてしまった。その後は中国が増産を重ね、GDPでも日本を抜き去り、アメリカに迫る勢いだ。自動車生産台数も中国が2500万台と圧倒的で世界の3分の1を占めている。その年に設置されたロボットの台数を見ると、2021年には世界の44%のロボットが中国で導入されている。日本は10%だが第2位である。製造業1万人当たりのロボット台数を見ると、世界平均では2015年の66台から2021年には126台と倍増したが、中国は50台から246台と、急速にロボット化・自動化が進んでいる。当社が100年かけてきた歴史を中国は30年で駆け抜けようとしている。中国におけるロボットメーカシェアを見ると、海外メーカが73%を占め、日本メーカは中国でも50%のシェアを取っている。半導体生産量のシェアを見ると、台湾⇒韓国⇒日本⇒中国⇒アメリカ⇒ヨーロッパとなっているが、特筆すべきは、半導体製造装置メーカシェアは日本とアメリカがほとんどを占めていることである。そんな中で、中国は2015年に「中国製造2025」という方針を定めた。2025年までに製造強国へ仲間入りし、2035年までに世界の製造強国の中等レベルへ到達し、建国100周年である2049年までに製造強国のトップになる、というものである。各国の中国からの輸入比率は上がっていく一方となっている。デカップリングではなくデリスキングで、中国依存度は増大している。日本も2018年時点で、貿易相手国は輸出の1位が中国で19.5%、輸入も中国で23.2%だ。デカップリングだとやめる必要は全くない。彼らの大量生産の能力や生産技術は素晴らしく、人材も非常に優秀である。日本が高度経済成長期に発展できたのは、毎年のように新しい施設を導入して生産技術が格段に上がっていったからで、中国もそれがずっと続いている。そういう中で、日本の製造業はどうすれば良いのだろうか。

さて、近年はIoTの時代となっている。実際に現場で何が起こっているか解析しながら、物作りをしていこうという時代である。顧客からの注文が指令として工場に出され、工場で物が作られる。これをデジタルで自動化するというのが、最初に話したメカトロニクスの工場である。IoTの時代では、現場のリアルタイムのデータを工場に蓄えて活用していく。莫大なデータを上げて時間をかけながら、ビッグデータとしてAI学習・解析をしていく。それをモデル化して下に下ろす。この部分については少し時間をかけながら取り組んでいるが、一方で急速に進み出したのがDigital Twinである。どういう風に機械を配置して使っていくかという基本構想を、バーチャルで物理的にテストできるようになった。現在はプロセスレベルでのDigital Twinを積み上げようとしており、工場全体としての最適化についても確実に現実の世界になるだろう。メカトロニクスを掲げてきたが、次はBTO(Build To Order)である。作りたい物にあわせて生産のライン自体が変わって、新しい物作りのラインが自動的にできてくる。こういう世界が次なる目標として掲げられようとしている。実際の実現にはまだ40～50年かかるだろうが、そこに向かって進んでいる。会社を切り出し、i3 DIGITALというIoTソリューション会社と、AI3というAIソリューション開発会社を設立した。これからの会社のオペレーションとしては、顧客は千差万別との意識のもとに、顧客にとって一番価値のあるものとは何かという方向性で物事を考えていこうという形態に変えた。これを上手くやっていけば企業の価値は上がると考えている。

最近は働き甲斐という言葉が良く聞かれる。最初は働きやすく自由に人生設計できる会社が理想で、そのために大効率化しなければと考えていたが、今はそれぞれの人間にとって働き甲斐のある会社というのは何なのか、問うようにしている。上司と部下のコミュニケーションを徹底しようと、毎月、全従業員に記名のアンケート調査をするようにしている。給与や勤務時間についても柔軟に変え、8割近くの従業員が働き甲斐があると答えている。

当社では一連のコンセプトをアイキューブメカトロニクスと言っているが、アイキューブというのはインテグレーションと、インテリジェントと、イノベーティブを指す。この言葉の意味を社内で徹底的に議論して浸透させていくというトップダウンと、先ほどのアンケート調査を通しての満足度向上に取り組むうちに、それぞれの業績も上がってきた。もう一つ変えたのは、わいわいがやがやした中で仕事をするという環境だ。まだ実際に数字としては見えないが、言語データ的にはかなり効果が出ている。働き方の1つとしてリモートは大切で、当社も全員がリモートで働ける体制を整えているが、会社に来てわいわいがやがやするほうが絶対に良いと思う。北九州というやや地方都市にあるため、職住が接近しているという強さも背景にあるだろう。わいがや文化というものをぜひ大切にしてもらいたい。特に新興の製造業で、本社が東京にある企業は意外と少ない。東京は旧態依然とした昔の会社が多い。海外を見ても、大都市ではなくローカル都市に本社がある企業が多い。早く地方分散をと本気で思っている。

最後に、ChatGPTに講演の挨拶を作ってもらったので紹介したい。きちんとした文章が出てくることが分かるだろう。時代は本当に変わっている。もの凄いことが起こる時代に、知識を詰め込むのではなくて、AIなどの道具をどう使っていくのか、という教育がこれからの時代に必要だと考えている。

◇報告Ⅰ◇

「学習支援センターの取り組みについて」

（菅世紀弥・一般社団法人福岡県私学教育振興会 学習支援センターセンター長）

学習支援センターは平成19年4月、高校の中途退学者が多く社会問題となっていたことから福岡県私学協会と福岡県私学教育振興会が共同で福岡市に開設した。平成21年には北九州、筑豊、筑後地区にも開設され、現在は福岡県私学教育振興会の組織の一部として、本県独自の教育施設となっている。

センターの目的は、在籍校で学習を続けることが困難な生徒に学習の場を提供し、学業の継続や在籍校への復帰を支援すること、中途退学者の進路相談に乗ることである。生徒は学校長の許可の下、在籍校に在籍したまま入所する。各校で出席・考査・単位認定等の校内規定を作成し、生徒は評価や単位の認定が可能になるよう、在籍校の時間割に沿って学習する。また、臨床心理士によるカウンセリングを実施し、在籍校への復帰を目指している。センター運営の財源は、利用協定を締結した59校からの負担金、福岡県から運営費補助金、サポート自販機寄付金となっている。不足が生じる場合は振興会の公益目的事業支出としており、授業料や教材費は原則として不要である。入所者数の推移を見ると、各校の取り組み等により不登校生は減少傾向にあったが、平成28年から再び増加している。令和2～3年には大きく減少した。コロナ禍でのオンライン授業の増加などで、不登校生が目立たなくなったからではないか。コロナ禍の影響も少なくなり、令和4年は再び増加している。

令和5年3月31日、文部科学省は「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」を取りまとめた。支援センターでの取り組みとほとんど変わりは無い。他の地域でも同じような取り組みが可能だろう。利用した生徒は、「センターに通うことでペースを取り戻し、学校にまた通おうという気持ちになった。自分も成長できてとても良い経験となった。」と話している。今後も、不登校生徒は増加することが予想される。学校として、不登校生の対応方法を柔軟に考えていく必要があるだろう。

◇報告Ⅱ◇

「変革の時代に未来の学びをデザインする」（平方邦行　一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長）

変革の時代の中で、何を重視して未来の教育をデザインすれば良いのか。20 世紀型教育へのアンチテーゼとしての 21 世紀型教育が求められている。基調講演でも話題となった対話型 AI である ChatGPT に質問を投げかけると、急速に世界が変わっていることが分かる。教育現場においてもその存在を無視することはできない。いかに教育の中に落とし込んでいけるのか、真剣に考えていく必要がある。ニューヨークの国際連合本部に掲げられている「黄金律(ゴールデンルール」」は 21 世紀型教育の原理原則の 1 つであると考える。ご存知のように「己の欲するところを人に施しなさい」という聖書の 1 節であるが、1 つの

宗教に限定するものではないと理解する。ヒトが人間であることの本質的を表しているものだ。黄金律(ゴールデンルール)に則ってクリエイティブスクールを目指せば、世界中の様々な問題が少しでも解決に向かうだろう。

未来が予測不能だからこそ、知識の量やこれまでの経験では物事を解決できない。今の小中高生はデジタルネイティブで、同時にグローバルネイティブでもある。その多くはZ世代で、今年の中学1年生はすでにα世代だ。現在はZ世代と非Z世代が入り交じって社会活動や経済活動が行われているが、2030年以降はZ世代の時代になるということは明白だ。コロナ禍で ICT 技術が大きく進展したが、デジタルトランスフォーメーション(DX)は教育現場にはまだ浸透していない。受験生や在校生が学校に求めるものはデジタル技術を使って把握し、学校の価値を高める努力をする。ICT によって学校教育をソフトやハードの面から支え、学校全体を変革することが必要になる。

唐突だが猪熊源一郎の作品を、ご覧になったことはあるだろうか。ぜひ見てほしい。彼の創造性はどこで育まれたのか。学習指導要領に創造性という言葉が8回目の改定で初めて取り入れられたが、皆さんは「どのくらい沢山の言葉と豊かな感性」を持っているだろうか。それは教師にとって必要なことの 1 つだと思う。20 世紀後半にベルリンの壁が崩壊して世界が一変した。先進諸国は、子供たちの創造性を養う方向に大きく舵を切る教育改革を進めてきた。しかし日本は遅れを取っている。創造性を養うというのは本当に難しいことだ。猪熊源一郎氏は、学校教育の中で創造性を身につけたのだろうか。そうではないと思う。自分の思いや目標と向き合いながら探究し、自ら創造性を育んでいった。

今回の学習指導要領では教科教育(授業)の中で、豊かな創造性を持った若者を養成すると謳われている。しかし学校に「自由な雰囲気」や「思いやり」「受容力」がなければ創造性は育たない。これらを意識して学校を創っていくことが、創造性豊かな若者を育てるためには必要だ。創造性の育成は、誰しもほとんど経験が無い部分だ。だからこそ研修が重要であり、教員向けの研修コードを開発した。形は思考コードと同じだが、内容は教師が研修を受ける上での学びとなっている。

未来がどのような世界かを想像し、そこからバックキャストして教育を考えることが重要だ。バックキャストしなければ、私立学校は教育の未来を見失い危機にさらされる可能性がある。また、建学の精神を深く理解すると、その学校の理念や理想に辿りつくが、さらに独自性・先見性・先進性を見極めて私学の教育の充実と発展に突き進みたい。

◇パネル・ディスカッション◇

「新たなブランドビジョンを描く～私学の先見性・独自性を発揮するには～」

パネリスト：西高辻信良（太宰府天満宮第 39 代宮司、宝満宮竈門神社宮司）
八尋　太郎（学校法人博多学園理事長）
田原　俊典（修道中学校・修道高等学校校長）
コーディネーター：鈴木　康之（水戸女子高等学校理事長・校長）

（西高辻信良・太宰府天満宮第 39 代宮司、宝満宮竈門神社宮司、八尋太郎・学校法人博多学園理事長、
田原俊典・修道中学校・修道高等学校校長、鈴木康之・水戸女子高等学校理事長・校長）

●鈴木氏：このパネル・ディスカッションでは、私学の新たなブランドビジョンを描くことをテーマに、私学の先見性、独自性、 そして未来を見据えた私学経営について進めていく。初めに今回、福岡で研修会を開催するにあたり、パネリストとしてお越しいただいた太宰府天満宮の西高辻さんからお話をいただきたい。

○西高辻氏：私は今、太宰府天満宮では最高顧問という立場だが、36 年間宮司を務めていた。菅公（菅原道真）のことは意外と知らない方が多いので、少しお話しさせていただく。菅公は、学者であり、教育者であり、政治家であり、詩人であり、歌人であり、編集者でもあるマルチな才能を持った人で、国際社会も俯瞰していた。そして、常に日本の未来のためにどうあるべきかを考え、次世代育成に尽力された。菅公の生きた時代から 1120 年ほど

経ち、私の前には 38 人のランナーがいる。そのランナーから預かってきたバトンをどうやって次の時代に手渡すか、できるなら自分の時代にプラス 1 点を加えることが宮司に与えられた大きな役割だ。私は、参拝者の皆様との距離感をどのように詰めていくかに取り組んでいる。神社は文化財にしてはいけないと思っている。21 世紀に生きている天神様を皆さんに感じていただきたい。常に思考の原点にあるのは、菅公が 21 世紀にいたらどんなことを考えられたかということ。今準備している一番大きな仕事は本殿を大修繕することだ。大規模な修繕は 124 年ぶりとなる。修繕期間中の仮殿は、大阪・関西万博の会場デザインプロデューサーを務める建築家の藤本壮介さんに設計を依頼した。数えきれない程の議論を経て、最終的には、屋根に木がのった「浮かぶ森」というコンセプトになった。藤本さんが意識されたのは、仮殿を周囲の天神様の森と一体化させること。神社は手を入れなければ劣化するだけ。手を入れ続けて初めてその形が残る。変わり続けて 100 年後に振り向いたら何も変わっていなかったというのが、理想の神社ではないかと思う。

私学の先見性と独自性の課題と実践

●鈴木氏：では 1 つ目のテーマ、私学の先見性と独自性の課題と実践についてお話をうかがいたい。

○西高辻氏：私の基準は先ほどお話しした通り、菅公はどう考えられるかだ。私学の独自性は、創立者の思いを今の時代の中にどう反映していくかではないかと思う。変化の中に独自性を保つことは大変難しいが、学校ができたパワー、つまり思いの根源は何であったのかに思いを馳せることが大切である。その思いをこの時代の中でどう具現化するのか。具現化する上で大切なのは、皆さんが喜んでいるのかだ。ウィンウィンをたくさん集めなければいけない。私の場合、まず神様に喜んでいただき、お参りいただいた皆さん、地域社会がますます元気になり、そして最後に私の神社としてプラスになるのかを考える。これからは、神社は社会性を持ち、地域社会などいろいろな方からの支援を受ける時代になってくると思う。同様に学校も間口を広くし、開かれた学校をつくり、いろいろな皆さんの支援、知恵をいただくことが独自性を作る一つの方法になると思う。

○田原氏：本校では、建学の精神を子供たちの学校生活の場面で出てくるような言葉で言語化し、自分のレベルを高めるために必要な姿勢や行動を分かりやすく示したベーシックルーブリックを作った。本校の建学の精神に、「有為な人材の育成」がある。これを口で説明しても分かりにくいので、例えばこういう価値観を持っている人、こういうスキルを持っている人と、分かりやすい言葉で表し、5 段階のレベルをつけて、どのレベルまで達しているのか年に 2 回自己評価させる。これが生徒にだんだん浸透している。

○八尋氏：本学園の建学の精神の最初に「全人教育」とある。生徒に言ってもほぼ理解されないので、「3 年後の笑顔だけでなく、30 歳時の笑顔も作りたい」というキャッチフレーズを作って、簡単な言葉にして伝えている。

ブランドビジョン

●鈴木氏：次に、ディスカッションの大きなテーマになっている新たなブランドビジョンについてお話しいただきたい。私学経営においても、「今までこうしてきたから」ということが通じない時代になった。基調講演にもあった通り、働きがいをどうやって感じさせるかもブランドビジョンの一つだと思う。

○西高辻氏：私が園長を務める幼稚園では素敵な日本人を育てることを目標にしている。日本人が今まで心地よかったもの、素敵だと感じていたものがなくなってきている。例えば子供たちに家から急須を持ってきてというと、ほとんどの家庭には急須がない。自動販売機にお金を入れればお茶は簡単に買えるからである。日常生活の中で、これまで当たり前に続いてきた文化が消えつつある。私は日本の文化、考え方をきちんと伝え、日本人のマナーとして、それができる子供たちを育てることが一つのブランドビジョンになるのではないかと思っている。

○八尋氏：2024 年度に小中一貫校を開校する予定があり、通常の勉強時間を 3 分の 1 にして、残った時間を人間力をつける授業と「発憤教育」と名付けた探究教育に近いものを行う予定だ。通常の授業時間を 3 分の 1 にするために、アプリなどで個別最適化した授業を行えば効率的にできると考えている。自分で考え、行動し、発信することを、小学校から指導しないと話にならない。中学校を卒業する頃には、高校の勉強を時間的に半分ぐらい終えて、高校でも発憤教育をする方向に持っていきたい。進学と部活では新しいブランドにはもうならない時代にきていると思う。

○田原氏：ブランドビジョンの議論するときに、絶対必要なのが、学校長が自身の頭の中で土台を固めていくことだと思う。私の場合は、保護者全員を集めて講演をすることが年に何回かある。その時に、教育の受益者はあなたたちではない、生徒でもない、未来の社会であると話し、本校の教育を、自信を持って進めていると保護者に最初に伝える。高校 1 年生がこの前の文化祭で巨大な地球儀を作った。世界の平和を祈って、一つ一つの国の形を、小さなバラで形どった。広島で開催される G7 のどこかで飾ってほしいと、生徒たちが外務省に手紙を書き、最終的には飾ってもらうことができて、生徒たちは大いに喜んだ。学校では成功例や感動シーンがたくさんある。それを上手に発信していくのが、これからの私学のブランドビジョンを描く上で、大事な

ことだと思う。教員との信頼関係を築くのにトップダウンは必要だが、その準備は慎重に行う。ルーブリックを作った次の年に、未来会議というものを設定した。毎年行っている教員面談の代わりで、修道の未来について先生たちの考えを聞いた。参加は自由で 7 つのテーマを設定し、私がファシリテーターになった。出た意見は校内 LAN で掲示板に上げた。その 7 つのテーマから今、修道が抱えている課題をピックアップして各部署で検討し、さらに校務運営委員会に戻して、具体的な解決策を考えてもらった。

●鈴木氏：先ほどの平方先生の報告の中で、数十年先を見据えることが重要という内容があった。今日のパネリストの皆さんからは、今直面している課題を一つ一つ解決していくというお話が出た。この両輪から新たなブランドビジョンが出てくるのではいないかと思う。

未来を見据えた私学経営

●鈴木氏：それでは、未来を見据えた私学経営について、お話をいただきたい。日本財団が 6 カ国の 18 歳に行った意識調査で、社会を支えたいとする意識が、日本の 18 歳はかなり低いことが結果として出た。そういった現状の中で、未来を見据えた私学経営についてパネリストの皆さんからご意見をお願いしたい。

○西高辻氏：神道では、水を配る水分神（みくまり）という神様がいらっしゃる。お米は神様から恵んでいただくもので、上の田んぼだけで水を使ってしまったら、下の田んぼまで水が回らない。それで日本人は助け合いながら社会を生きてきた。そういうことが現代社会の中で忘れ去られている。この国にある財産で一番大切なのは人だ。外国人からなぜ日本人は交差点でぶつからないのかと聞かれたことがある。それは譲り合う精神があるからだ。そういう感性をこれからもっと育てる必要があるのではないか。

○田原氏：私は保護者に、成功事例が多ければ多いほど自己肯定感が持てるようになると話している。自己肯定感の強い子は粘りがある。少々の傷では痛がらない。そういう子は高い感性を持っているように思う。学校での成功体験は、昔ならばテストの点数や偏差値が上がるくらいしかなかった。ところが今は学校でいろいろな経験をさせているため、成功体験の機会は多くある。でも学校で成功体験を積んでいっても、家庭の保護者の一言でそれが崩れてしまうことがある。保護者には「あの子と比べたらダメだ」ではなくて、「昨日できなかったことが今日できるようになってよかった」、と自分の子供に合わせた物差しを持ってもらいたいと常にお願いしている。そうすると家庭でも、親は見てくれていると子供は感じ、小さな成功体験になり、その積み重ねが彼らに自己肯定感を与えることになる。

○八尋氏：私は 17 年前に高校の校長になった。今は生徒数が 1260 人だが、当時は 1000 人を切っていた。それでマスコミなどに広報を流したりしたが、少し違うと思い、本校の教育理念が全人教育ということで人間教育を始めた。高校で、学校の生徒を増やすのは当然かと考えるが、そのために何かをするのでは、だめだと思うようになった。未来を生きていくためには何を教えればいいのか。それは東大に行くことでも、甲子園に行くことでもないと教員たちとやりとりをして、人間教育を始めた。だから勉強ができるようにではなく、高い意欲を持ち自分で考えて行動し、社会で活躍できる人間を育てていきたいと思っている。

○西高辻氏：私立と公立の学校の違いは何かと考えた時、公立学校が幅広い層の教育を担うのなら、私立学校はフロントランナーとしてチャレンジをし、日本の教育はこんなに素晴らしいと周知してほしいと思う。八百万の神と言われるように、神道には沢山の神様がいらっしゃる。その中でも学問の神様と慕われる天神様がより皆さんに親しんでいただける神社でありたいと思い、私たちは常にチャレンジしている。チャレンジを続けることが、天神信仰の一つのあり方ではないかと思う。私立学校はもっと飛び出た発想と思いと夢を描き、日本の教育を引っ張っていっていただければと願っている。

○田原氏：最近、頻繁に AI のニュースを耳にする。AI が教員の代わりになって授業をする可能性は十分ある。AI を使いながら、生徒が自主的に学力を伸ばせるファシリテーター的な教員のあり方、すなわち教科を教えるのではなく、うまく集団を動かしていくテクニックを、これからみんなで考えていきたいとい思っている。

●鈴木氏：本日は 3 つのテーマについていろいろご発言いただいた。結論がすぐに出る話ではないが、何か感じてもらえたら幸いである。どんなに時代が変わっても、建学の精神という思いを次の世代につないでいくことで、私学はますます発展していくと確信している。

◇教育懇談会◇

（山中幸平・当研究所副理事長、堀雄一・福岡県私学協会副会長、森涼・福島県私立中学高等学校協会会長、平方邦行・当研究所理事・所長）

山中幸平・当研究副理事長の主催者挨拶に始まり、**堀雄一・福岡県私学協会副会長**による乾杯の後、参加者は少人数のグループ毎に交流を図った。**森涼・福島県私立中学高等学校協会会長**が次年度当研修会開催地を代表して歓迎の意を表し、最後に**平方邦行・当研究所理事・所長**より閉会挨拶があり、盛況のうちに閉会となった。

◇意見交換会◇

今年度から、参加者が司会を行うなどより参加者主体の形に変更して実施した。「新しいブランドビジョン」「未来を創造する力を育む教育」「これからの教職員のキャリア形成」「私学の特色と情報発信」の 4 つの重点テーマについて、各校が直面する諸課題について語り合い、経験と課題を　共有した。新形式での意見交換会は参加者にも好評で、大いに議論が盛り上がった。

◇総括◇

長塚篤夫（当研究所副理事長・私学経営専門委員長）

教育分野の DX について、ChatGPT の登場によって多くの先生方の考え方が急速に変わったのではないか。マイケル・オズボーン博士は、AI に置き換えられない仕事の特性は、創造性と社会性だと述べた。子供たちの創造性を育むのは難しい問題だ。創造性は学びに向かう力の源で、それをいかに用いるかが社会性や人間性だと思う。そのバランスが重要で、そこに我々の教育の意味があると言える。私学にとってのブランドとは、建学の精神が本物であることを証明するもの、と考えるべきなのかもしれない。西高辻宮司の言葉を借りるならば、変わり続けても変わらない百年後のスタンダードを築くことができるか。それがすべての私学の課題ではないか。そのような多くの気づきを得ることができた私学経営研修会であった。

◇学校視察◇

【Aコース：福岡大学附属大濠中学校・高等学校】

曽野正純・福岡大学附属大濠中学校・高等学校校長の挨拶に続いて、**前原浩明・同校副校長**による学校紹介、**池邉浩一郎・同校事務職員**による施設説明が行われた。施設見学の後、吹奏楽部の演奏、体育祭応援演舞等の迫力ある生徒のパフォーマンスを見学し、全体会での質疑応答を行った。

【Bコース：福岡雙葉中学校・高等学校】

麻生泰・学校法人福岡雙葉学園理事長、谷本昇・福岡雙葉中学校・高等学校校長による挨拶、**長村裕・主幹教諭**による学校紹介、生徒2名による日本語と英語でのプレゼンテーションがあり、生徒と参加者の質疑応答の時間も設けられた。その後は生徒の案内で数多くの授業を視察した。生徒との交流が盛り込まれたプログラムは参加者にも大変好評で、実りの多い学校視察となった。

◇都道府県別参加者数◇

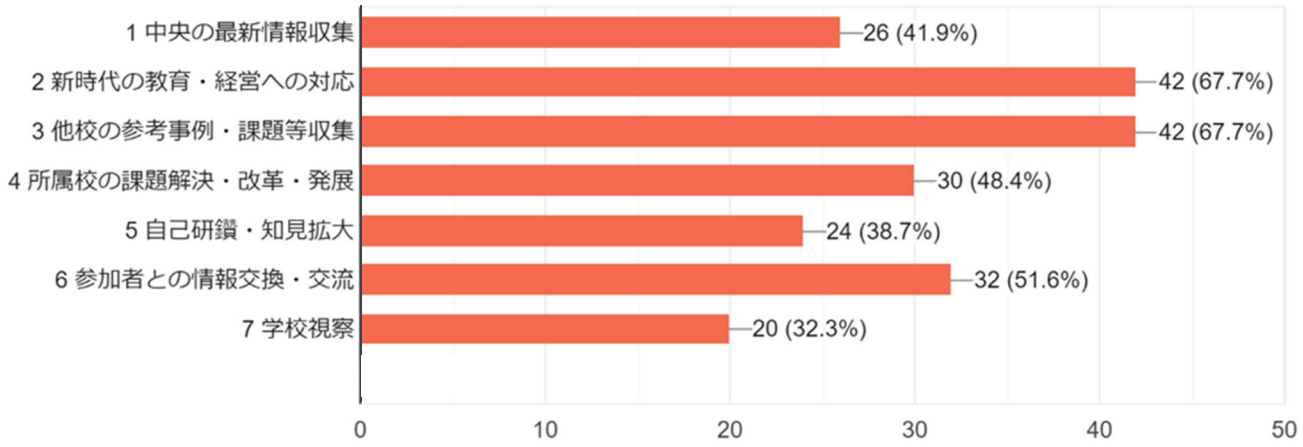
No.	都道府県名	人数	No.	都道府県名	人数	No.	都道府県名	人数
1	北海道	3	17	石川	1	33	岡山	2
2	青森	—	18	福井	—	34	広島	7
3	岩手	—	19	山梨	—	35	山口	—
4	宮城	3	20	長野	—	36	徳島	—
5	秋田	1	21	岐阜	—	37	香川	1
6	山形	4	22	静岡	5	38	愛媛	1
7	福島	2	23	愛知	1	39	高知	1
8	新潟	—	24	三重	2	40	福岡	22
9	茨城	2	25	滋賀	1	41	佐賀	2
10	栃木	2	26	京都	4	42	長崎	5
11	群馬	—	27	大阪	11	43	熊本	1
12	埼玉	—	28	兵庫	2	44	大分	1
13	千葉	4	29	奈良	2	45	宮崎	—
14	神奈川	10	30	和歌山	—	46	鹿児島	4
15	東京	28	31	鳥取	—	47	沖縄	—
16	富山	—	32	島根	—			
視察人数		福岡大学附属大濠中学校・高等学校：	49	福岡雙葉中学校・高等学校：	51	計		135

参加　30　都道府県

◇参加者アンケートより◇

（回答数 63 名／参加 135 名・回答率 46%）

○参加目的



○講演（吉田理事長）

・私学の現状を踏まえた課題等について改めて認識することができた。
・経営の視点を持つことの意味を感じた。
・私学が次代を担う若者に何を伝えていくべきか、どのような存在価値を見出すべきかを考えさせられた。

○基調講演（津田氏）

・企業文化を創ること、働きがいについての話が参考になった。
・次々と先を読み、ビジョンを構築していく組織運営に感銘を受けた。
・安川電機の「時代を先読みした対応力」は私立学校にも求められる力であると感じた。

○報告Ⅰ（福岡県）

・福岡県私学の特別な取り組みで大変興味深かった。
・今後、学習支援を必要とする生徒はさらに増える傾向にある。どの都道府県も福岡県を見習い早期に体制を整えることが必要だと思った。

○報告Ⅱ（平方所長）

・創造性を育てる教育の実現のため、まずは教師として沢山の言葉と豊かな感性を持つよう励んでいきたい。

・ChatGPT などの AI が無視できない存在となっている現状を再認識した。
・現在から考えるのではなく、生徒が社会人として活躍する未来を考えて教育する必要性がよく理解できた。

〇パネル・ディスカッション

・変わり続けても変わらない私学教育の魅力を大切にしていきたいと考えさせられた。
・建学の精神に基づく教育とその特色の出し方について、様々な取り組みを聞けて非常に参考になった。
・私学の建学の精神と、神社等における伝統の継承に共通する部分があるとは新鮮だった。

〇教育懇談会

・意見交換会前に親睦を深めることができてとても良かった。
・なかなか話すことのできない地域の先生方とも交流が持てた。
・普段の学校の様子について気楽に話ができて良い時間だった。

〇意見交換会

・前日に顔合わせを行っていたため、スムーズで活発な意見交換会となった。
・報告なしのフリーディスカッションで良かった。
・各校の取り組みは非常に参考になったし、課題も共有できた。

〇学校視察

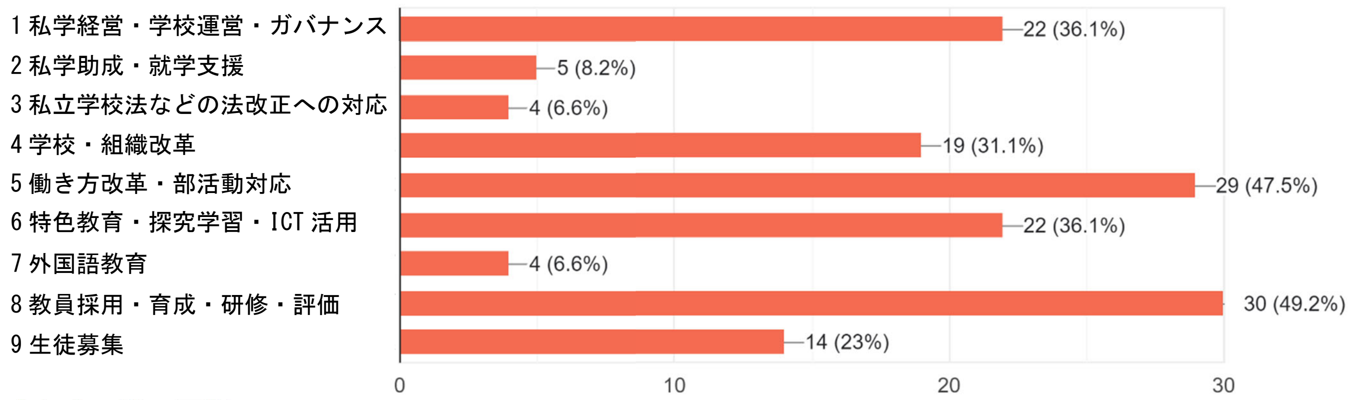
【福岡大学附属大濠中学校・高等学校】

・質疑応答の時間が良かった。
・体育祭の運営を生徒にさせていることが参考になった。
・整った環境や高い進学率など、また部活実績は素晴らしいと思った。

【福岡雙葉中学校・高等学校】

・探究学習の取り組みがとても参考になった。総合型選抜入試に強い学校づくりも参考になった。
・生徒さんたちの「若者らしい姿や活気」を見ることができた。このような熱を大切にしたいものだと感じた。
・英語力の養成、課題発見･解決力の養成の姿勢の高さに感心した。

〇喫緊の課題



〇来年度以降の要望

・先進校の具体的な実践事例、最新情報を提供してほしい。
・魅力ある職場環境について関心がある。
・海外の教育、新しい教育理論、外国の方の話。
・LGBT 法に関して、学校現場としての対応と法令遵守にあたって注意する点について取り扱ってほしい。
・私学の学校ブランド、ヴィジョンの確立に向けて、今年度のテーマは素晴らしかった。
・教員採用の工夫・実態・妙案、組織改革、教育力強化、伸ばす授業。
・探究を活用した大学入試について。その必要性。

＊＊＊

次年度（令和 6 年度）私学経営研修会は
福島県石川郡石川町・八幡屋において
令和 6 年 6 月 6 日(木)～6 月 7 日(金)に開催致します。

＊＊＊